

所員の活動状態

論文関係

木材物理第1研究室

後藤 輝男・梶田 茂,

“注入木材に関する研究(第11報)石炭酸樹脂処理木材の比重, 圧縮強さ, 硬度及び衝撃曲げ吸収エネルギーに及ぼす樹脂硬化過程の影響” 木材学会誌 Vol 3. No 3, 108 (1957); “同(第12報)石炭酸樹脂処理木材の引張曲げ及び剪断強さに及ぼす樹脂硬化過程の影響” 同 Vol 3. No. 4, 133 (1957)

黒木 康男・梶田 茂

“人造板に関する研究(第5報)湿式繊維板の樹脂処理について” 木材学会誌 Vol 3. No 4, 128 (1957)

後藤 輝男

“改良木材” 建築と社会 No 11, 51 (1957)

黒木 康男

“奈良の茶釜” 木材工業 Vol 12. No 128, 19 (1957)

木材物理第3研究室

杉原彦一・土肥修・菊川茂・谷尻正三・齊藤勇,

“両歯帯鋸による製材に関する研究(第4報)走行挫屈について” 木材学会誌 Vol 3. No 5 (1957)
“同(第5報)挽材実験その1” 同 (1957)

角谷 和男・杉原 彦一,

“木材の引張及び曲げ破壊強度における寸法効果について” Vol 3, No. 5 (1957)

木材化学第1研究室

小林 穆・館 勇

“活性炭(その2), 活性炭の用途” 澱粉工業会誌 Vol 4. No 4, 149 (1957)

越島 哲夫・館 勇

“Studies on mannan in wood pulp. Part 1 Isolation of mannan from β - and γ - cellulose and their sugar composition” Bull Agr. Chem. Soc. Japan. Vol 21. No4 253 (1957)

木材化学第2研究室

西本 孝一

“集成腕木” 木材工業 Vol 12. No 125. 7(1957)

講演関係

木材物理第1研究室

後藤 輝男

“木材接着に關与する諸因子とその相互關係について” 日本木材加工技術協會關西支部大会, 於大阪府立労働会館, (昭和32年6月7日)

“木材接着試験について” 大阪府合板研究会, 於日本合板検査会大阪検査所, (昭和32年6月26日)

“木材接着剤の耐久性” 同上(昭和32年9月24日)

後藤 輝男・荒木 幹夫・梶田 茂,

“木材の Dimensional Stability に関する研究(第1報) β -naphthylamine 処理材について”

第5回日本木材学会大会, 於京大農学部, (昭和32年10月13日)

黒木 康男・梶田 茂

“人造板に関する研究(第6報)湿式繊維板の樹脂処理について(2)” 同上

木材物理第2研究室

満久 崇鷹・浜田 良三・佐々木 光

“パーティクルボードの成型時間に及ぼす水分の影響” 第5回日本木材学会大会, 於京大農学部(昭和32年10月13日)

木材化学第1研究室

小林 穆

“亜硫酸パルプ廃液に関する研究(第4報) B.O.D. と糖類について” 第5回日本木材学会大会, 於京大農学部, (昭和32年10月13日)

越島 哲夫・館 勇,

“パルプ中のマンナンに関する研究(2)レーヨンパルプ醋化分解生成物より 1・4-グルコシドマンノーズの分離” 日本農芸化学会大会, 於東大農学部, (昭和32年4月11日)

木材化学第2研究室

西本 孝一・井上 吉之

“集成腕木について” 関電技術研究所研究会 於電気クラブ会館, (昭和32年8月23日)

西本 孝一

“クレオソート油の耐候試験”日本木材加工技術協会関西支部，同木材保存部会，日本木材学会，於京大楽友会館（昭和32年10月15日）

木材化学第3研究室

荒木 幹夫・後藤 輝男・梶田 茂，

“木材の Dimensional Stability に関する研究（第1報） β -naphthylamine 処理材について”第5回日本木材学会大会 於京大農学部（昭和 32 年10月13日）

其 の 他

本研究所満久崇磨教授は約1ヶ年の欧米留学より11月23日無事羽田空港に帰国された。

昭和32年8月10日岡山県立勝間田農林高等学校林科学学生19名，8月28日山口県産業教育研究会の山口県立佐波高等学校，9月19日京都木材市況調査会々員13名，10月4日京都市製材組合員5名，10月15日日本木材加工技術協会製材部会々員（約20名）木材保存部会々員（約40名）。

11月5日カナダ林産試験場長 J.H. Jenkins 氏が日本木材学会長梶田茂氏林業試験場木材部長小倉武夫氏と共に見学の為来所。